

3 - 4 山梨県東部の水平地殻歪

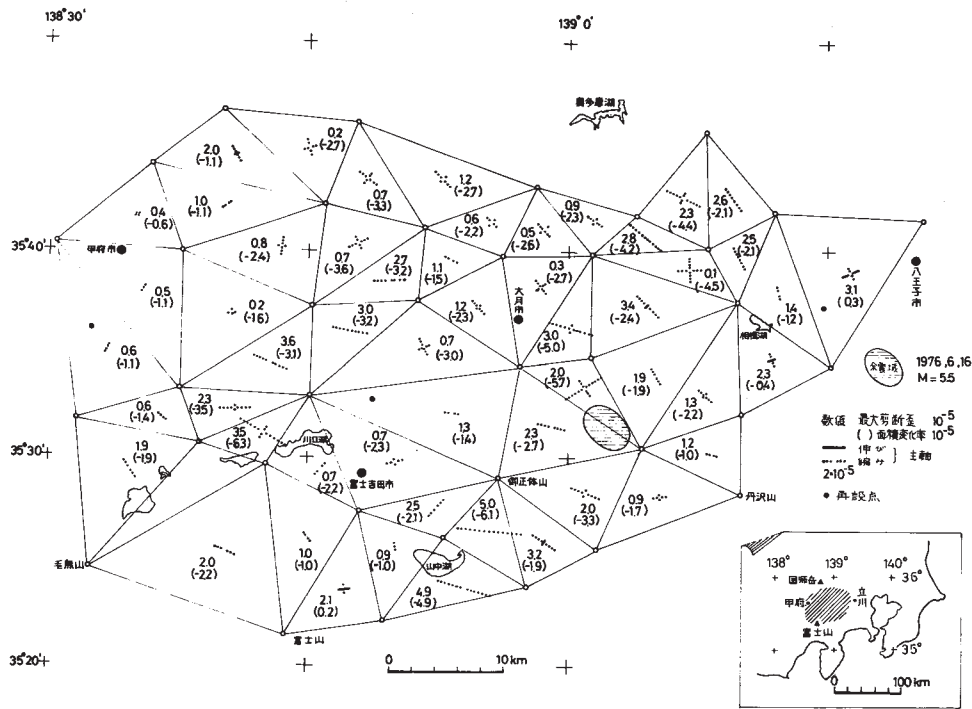
Horizontal Earth's Strain in the Eastern Part of Yamanashi Prefecture

国土地理院 測地部
Geodetic Division, Geographical Survey Institute

精密測地網一次基準点測量が1975年8～10月に山梨地方において実施された。この測量は既設の一、二等三角点間の辺長を直接光波測距儀で測定する三辺測量であるが、その一部の辺については、夾角の測定を行い二辺夾角の方式で間接的に辺長を求めたものを含んでいる。

第1図は、今回の測量結果と、関東震災直後（1925～6年）の二等三角測量による辺長と比較して求めた約50年間の水平歪を示したものである。平均的にみると、歪の大きさはほぼ 2×10^{-5} であり、圧縮の方向は概ね北西～南東である。山中湖付近の歪の大きいところは、大平山を中心とする有心4辺形のなかに、二辺夾角による間接測定辺長が3辺あり、かつ比較的比高差の大きい辺長もあり、気象補正上の問題点も含んでいることなどのため測距精度が低下したものと考えられる。

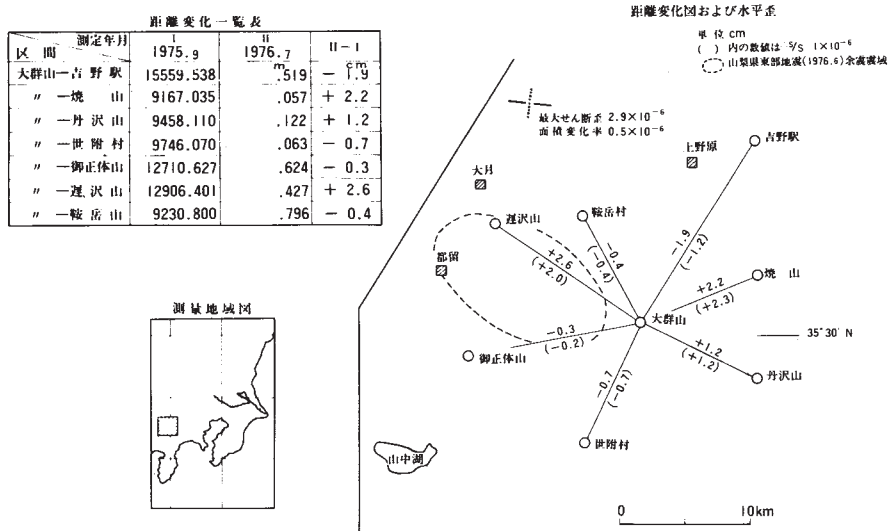
1976年6月16日M = 5.5の山梨県東部地震（当地域東南部の大群山付近）が発生したが、この地震直後の1976年7月21日～8月6日に、大群山を中心に7辺の測定を光波測距儀を用いて実施した。その結果は第2図に示すとおりで、有意な変化は認められない。



第1図 山梨地方水平歪 (1975 - 1925 ~ 6)

Fig. 1 Horizontal Strain in Yamanashi district (1975 - 1925 ~ 6)

Epicenter distribution of after shocks of the earthquake (1976.6.16, M=5.5) are shown by the shaded zone.



第2図 地震 (1976.6.16 M = 5.5) 前後の余震域における距離変化

Fig. 2 Distance changes in the epicentral area (dotted circle) before and after the earthquake (1976.6.16, M=5.5). This seems to be due to the observational error rather than the changes accompanied by the earthquake.